

## 新たな総合戦略の策定に向けて

令和4年9月29日  
広島県知事 湯崎英彦

### 《試行錯誤しながら取り組むデジタル実装》

- デジタル実装は、地域ごとに課題が異なるため、試行錯誤をしながらアジャイルに取組を進めていくと同時に、実践の中で失敗もあるため、大きな人的・資金的投資を行なうことで、いわゆる「死の谷」を超えていかなければならない。
- デジタル実装を成功させるためには、課題を自分ごととしてとらえて、トライ＆エラーを繰り返しながら取り組んでいくということが必要。トライ＆エラーを繰り返す中で、人材が育って、知見が蓄積され、地域の力も高まっていく。
- これらの考え方にに基づきながら、本県では
  - ・ デジタル技術を活用した実証実験の場「ひろしまサンドボックス」と、その実装を促進する取組
  - ・ 中国5県での防災システムの共同利用・統一化に向けた取組などに取り組んでいるところである。
- このような手法は、短期的には投資効率が落ちるように見えるかもしれないが、そういうチャレンジをする中で、実践的な人材の育成が進み、長期的には人材投資につながるものであるため、まずは失敗を許容することが重要。

### 《徹底的な横展開によるデジタル実装》

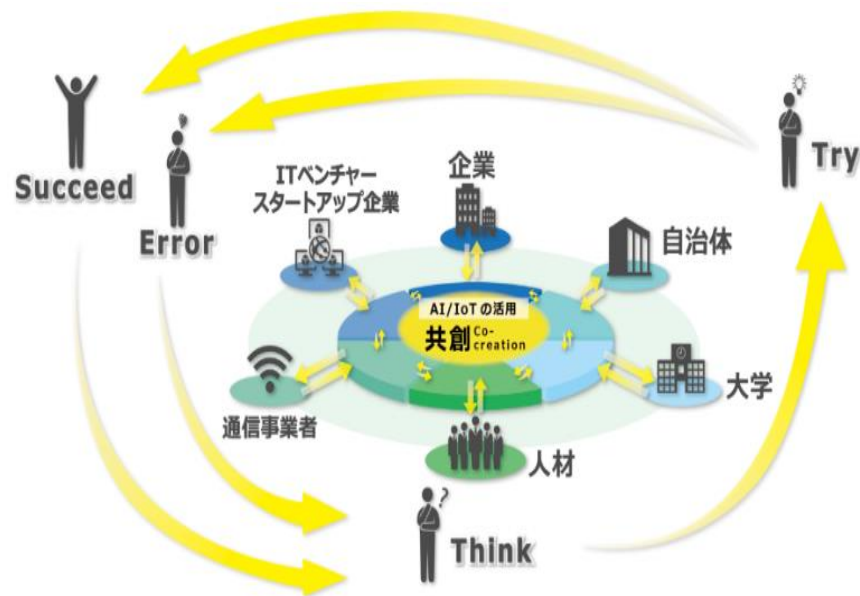
- 一方で、同時に小さな成功体験を積み上げるということも重要。
- デジタル実装により効果を実感しやすい課題については、地方においてデジタルの力になるべく早く取り込むため、徹底的に横展開をすすめるべきであり、着実に実現させる戦略や戦術が必要。

### 《新たな総合戦略の策定に向けて》

- 本年6月に策定した「デジタル田園都市国家構想基本方針」においては、
  - ・ 地方公共団体や民間企業のチャレンジを広く認め、試行錯誤を許容しつつアジャイルに取組を進めることが重要であること
  - ・ 全国津々浦々で構想を力強く進めていくためには、地方の創意工夫がなされた独自の取組を積極的に横展開していくことが必要であることが盛り込まれている。
- デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮）の策定にあたっては、地方のデジタル実装の実現に向け、アクションプランを策定するなど具体的な道筋を明らかにしていただきたい。

# 作ってはならし、みんなが集まって、創作を繰り返す 「砂場」のように何度も試行錯誤できる場

AI, IoT, ビッグデータ等の最新のテクノロジーを活用することにより、  
県内企業が新たな付加価値の創出や生産効率化に取り組めるよう、  
技術やノウハウを保有する県内外の企業や人材を呼び込み、  
様々な産業・地域課題の解決をテーマとして共創で試行錯誤できる  
オープンな実証実験の場「**ひろしまサンドボックス**」を構築



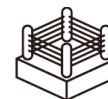
# これまでひろしまサンドボックスで実証実験を行ってきた ソリューション（108件）の広島県内への実装を推進

## 実装支援事業

県内企業のニューノーマル化やデジタル田園都市国家構想の実現を目指し、ひろしまサンドボックスにおいて、これまでの4年間で開発されてきた商品・サービスの県内への実装を支援。

- ソリューション数：108件
- うちエントリー数：44件
- 採択件数：20件（事業開発者:20者，実装事業者:41者）

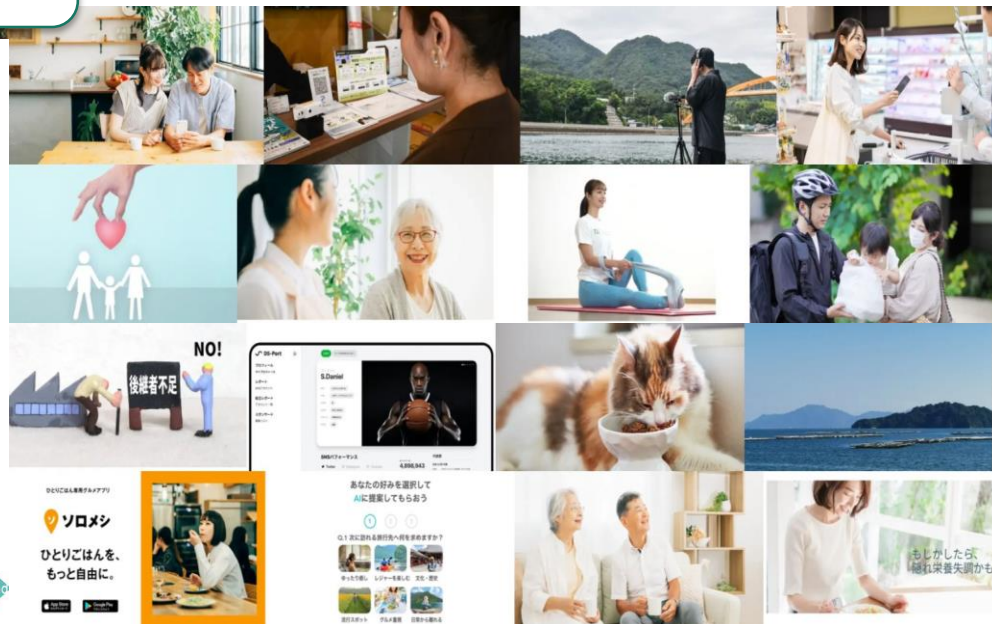
HIROSHIMA  
**SANDBOX**  
ひろしまサンドボックス



INNOVATION CHALLENGE  
**RING HIROSHIMA**



ひろしまサンドボックスは  
実証から実装へ



# 中国 5 県での防災システムの共同利用・統一化に向けた取組

- 令和 2 年度から、中国地方 5 県で、防災情報システムの共同利用・統一化に向けた検討を実施中
- 次期システムでは、リアルタイムで災害情報を収集し、関係者間で即座に共有情報が一元的に確認でき、意思決定や救助活動の迅速化を実現することにより、災害の予防や人的被害の軽減等を目指す
- 現在、次期システムの基本機能や各県独自機能について、中国地方各県や県内市町と意見交換を重ね、とりまとめを進めており、今後、共同利用の参加県の募集を進め、令和 7 年 1 月から稼働開始予定

## ○次期システム導入後の対応イメージ

